

高津中学校区
東高津中学校区 地域教育会議だより



わかあゆ

編集・発行：高津・東高津中学校区地域教育会議 広報委員会

地域教育会議がめざすもの

- ・子どもがいきいき育つまち
- ・おとなも楽しく学べるまち

地域教育会議と言っても分からない人も多いと思います。

名称が堅いこともあり、地域に浸透しているとは言い難いかもしれません。

1980年代、校内暴力で荒れる学校や少年事件が多発。川崎市では地域からの教育改革をめざし「地域教育会議」が提案されました。

地域と学校、行政が共に協力し、子どもがいきいき育つまちを作ろうというものです。

そして、おとなも楽しく学べるまち、ひいてはあらゆる人々が共に生きる地域社会をめざします。



地域教育会議は平成10年には1行政区、51中学校区すべてに設置されました。高津中学校区と東高津中学校区とは川崎市で唯一、2つの中学校区が合同で活動を行っています。また、その活動の中から、総合型スポーツクラブSELEと防災・防犯ネットワーク、2つのNPOが誕生しました。コロナ禍により活動が制限される中、これまでの実績を先人たちに語っていただきました。知らなかった方々に周知するとともに、今後活動を繋いでいただく方々への一助として。

(企画・編集 角田)

広報誌「わかあゆ」の命名

大塚 勉

私が高津・東高津中学校区地域教育会議のメンバーになったのは、東高津小学校のPTA会長に就任した平成13年度からで、広報委員会の末席に加えていただきました。

自他共に認める軟らかい人間の私は、「地域教育会議だより」というネーミングは



堅くて、読者がとっつきづらいのではなにかというイメージを持ち、当時の黒川広報委員長と相談し、この地域の子どものちが、母なる川多摩川の清流で育つ若鮎のように、力強く健やかに成長してほしい、そして何より一人でも多くの方に親しんでいただけたらとの想いで、第11号の広報誌から「わかあゆ」というタイトルで発行させていただくことになりました。

年度内に2回発行でしたので、総会終了後その日に両議長へ原稿依頼し、調査提言・連絡調整委員会には、早目にイベントを行ってくださいます。かなり無茶なお願いをいたしました。それでも原稿が仕上がるのは、締切日の朝方になることが多々あったり、予算の関係か？回覧用の「わかあゆ」を、各町会長宅へ自転車配送するなど、広報委員会は体力勝負！若かったからできたのかもしれませんが、また、総合型クラブ自体は、平成7年の育成モデル事業(旧文部省)から開始されていましたが、私が広報委員長を受けた頃、全国で総合型地域スポーツクラブ育成の動きが活発になり、高津地区でも設立準備委員会が立ち上がり、体育指導委員会(現スポーツ推進委員会)の副委員長を務めていたこともあって、

会議に出席させていただきました。当然のことながらハードルは高く壁にぶち当たりましたが、参加委員の必ず実現させたいという熱意、結束力と執念で、ブレオーブンを経て平成18年にSELEFが誕生しました。

私も微力ながら今日に至るまで、週1回のニュースボーツというコマの講師として、幼児から中学生会員さんに、キンボール・ドッチビー・ポッチャなどに慣れ親しむ機会を与えていただいております。しかし、昨年から新型コロナウイルス感染症拡大の影響により活動自粛を余儀なくされ、2月8日に安全な環境下で2度目の再開をしたものの、感染を恐れて来られない会員さんも少なくありません。

コロナで世の中全体が閉塞感に包まれていますが、一日も早く終息し、安全・安心な「日常」がかえって来ることを祈念します。

中学校区地域教育会議のスタート

菊地 正

平成12年に川崎市では初めての、二中学校区合同の会議がスタートいたしました。

地域でもともと六校連という組織があり、



様々な活動を地域全体で、学校とPTAが協働し活動をしてきた歴史がありました。私は

当時、高津中学校PTA会長に就いており、

第二代目の高津・東高津中学校区地域教育会議議長を拝命いたしました。各校の学校長とPTA会長を中心に、様々な地域課題の解決、学校・地域との連携など沢山の課題に

向け、熱い議論を交わしたことを、昨日のように記憶しております。

その中でも、将来に向かった楽しい夢を語る

引きこもりの私を引っ張り出して
くれた「地域教育会議」

二戸 恭子



人見知りで引きこもりの私が、家族と職場の人間関係だけの生活に満足し、楽に生きていたころ、PTAの先輩が狭い社会の中から、引きずり出してくださいました。

保護者と教職員の組織PTAの役員を経て、地域と学校・行政がともに協力し、子どもが生き生き育ち、大人も楽しく学び、あらゆる人々が共に生きる地域社会を目指す活動をする地域教育会議に参加することになりました。

地域教育会議では、教育を語るついでに委員会の委員として、またそこから派生したNPO法人防災・防犯ネットワークの理事として活動することになりました。

これまでの活動で、記憶に残る印象的なこととして、私の単なる思い付きの言葉が形となったことがあります。

教育を語るついでに、みんなの力で地域を守る2011のことです。その年は、落語家さんをお呼びし、防犯ネタの新作落語で「振り込め詐欺」などを防ぐ知恵を、楽しみながら学ぼうということだった。で、「子どもたちや地域の方々から川柳を募集し、優秀作を発表したらどうだろうか」と提案したところ、防災・防犯ネットワークの他の理事や当時の教育を語るついでに委員の方にご意見や助言をいただき、恒例のコーナーとなることになりました。各学校の校長先生はじめ先生方には、

お忙しいところ子どもたちへの川柳募集から指導、優秀作の選定に至るまでご協力をいただき、ありがとうございます。子どもたちには、川柳という形にとらわれず考えてもらうために、標語のようなものでも構わないとしましたが、子どもたち自ら、防犯や防災について考えてもらうことで、防犯・防災意識を育てることができたのではないかと考えています。

コロナ禍で活動が制限されていますが、一日も早い収束を願っています。



三遊亭好太郎さんという方でした。

地域活動の楽しさに
気づかせてくれた地域教育会議

和田 隆昌

一九九〇年代後半から、会社員から独立し、今から考えれば、無謀にもNY進出を企てていた自分は、二〇〇一年NYのテロ事件に目標を砕かれ、全く異なる「防災」を自分の独自のコンテンツにしようと模索していました。そんな中で防犯ネットワーク(当時)の理事長である田中さん、副理事長の鈴木さんと偶然知り合い、メンバーにならせていただき、それまでの人生では、全く関わったことなどなかったNPO法人「防犯ネットワーク」での活動に参加し、地域での活動の大切さ、楽



気仙沼市震折(ししおり)にて

しさに気づかせていただきました。その後、防災に関する本をいくつか出せるようになり、メディアや講演などにも呼ばれるようになったのも、原点にしていたのはこの地での活動であり、二〇〇八年、〇九年に行われた地域教育会議の「教育を語るついで」での地域安全フォーラム「みんなの力で地域を守る」での防災に関する講演でした。

二〇一一年に「東日本大震災」が発生することで、本格的に「防災」の講演や執筆を求められるようになるのですが、まだこの頃は人前で話すのはあまり得意ではなく、理事長、副理事長、各関係理事らにあまりに饒舌に、かつ熱く語るのに驚いていました。よく自分のようなものがあの壇上に立たせていただいたものだ、と口には出しませんが、そんな気持ちを覚えています。二〇一六年に三回目となる

「教育を語るついで」での講演をさせていただきますが、そこではもうかなり余裕をもってお話が出来ました。この活動に参加させていただいたことに大変感謝しております。



講演の後、田中理事長が進行。会場から質問を受け、和田さんがそれに答えたり、聴衆に紅白のカードでアンケートをとったり。この頃、NPOの飲み会では、飲むにつれ今度こうしようと、活動レベルのハードルをどんどん上げていく発言が頻発。和田さんも呆気にとられたでしょう。私もおかげさまで印刷物や動画作成のスキルが上がった？



地域教育会議での最初の講演のチラシ。

「うちの体育館を使いませんか?」二〇〇八年、ある日の北見方の居酒屋で、川崎市立中央支援学校(当時は市立養護学校)



音楽イベントを通じて
地域のつながりと福祉に出会った私

村西 明

次は、まず人がありきで、それが繋がることでこんなことができた、こんなイベントに発展した、さらには「福祉」にも出会ったという話です。



中央支援学校音楽部の歌とダンス(2017年)。

新型コロナの影響で、残念ながら昨年からは中断してしまいましたが、二〇〇八年から19年まで12回続いている「ふれスタ」。東高津中のおやじの会とPTA

東高津中学校区のおやじの会を母体としてスタートしたイベント「ふれスタ」。令和元年(二〇一九)年から地域教育会議「共催」の形をとりましたが、スタート時点から、運営の中心メンバーは地域教育会議とつながっていました。



つながれば何かできる!

のPTA会長さんから声をかけていただいたのが始まりでした。地域の音楽やダンスの好きな子どもや大人のバリアフリーイベントとして毎年、夏に行っている「ふれあいフェスタ」(Festa)「通称「ふれスタ」」。



東高津中学校の吹奏楽部のステージ(2017年)。

学校教育推進会議の委員を丸10年務めることに。さらに昨年は、福祉事業に熱意のある若者と一緒に知的障害者を支援するグループホーム事業を行う法人も立ち上げました。人生何がどうなるのか分かりませんが、地域とのつながりを大事にすることが全ての始まりでしょうか。コロナが落ち着いたら、またイベントでお会いしましょう。



高津高校のバンドとコラボするオヤジバンド。ドラマーは高津高校の先生です(2017年)。左端は村西さん。その右は東高津中学校区地域教育会議の歴代議長でもある清水さん。この誌面巻頭に書いてくれた大塚さん、また大塚さんの原稿に登場する黒川さんも、初回のふれスタから手伝ってくれました。

東高津中学校区

「おやじの会」の始まり

棚部 哲男

20年ほど前、東高津中学校のPTA役員を務めました。学校行事等にお父さんたちの参加が非常に少なく、角田会長年度の文化祭(ふれあい広場)に向けて、これでは駄目だと思い、早速仲間を募ろうと考え、保護者にとらわれず地域の仲間達にお声がけしました。



地域の男性が学校に足を運ぶこと、ひいては子どもたちと触れ合い、地域に関心が持て、仲間との交流も出来る、地域の輪が広がると思いました。

会費はなく、話が出るたびに集まり、役職はなくみんな平等。PTA副会長が世話役となり、学校、PTAなどで、例えば校門のペンキ塗り、学校内のLANケーブル敷設工事、芋畑の耕しなどを行う。大仕事でしたが野球のゲージ工事も。

もちろん学校行事にも無理せず参加。その度に、その得意分野のおやじがリーダーとなり、お手伝いをさせていたきました。年に一度しか会えない方、お孫さんが中学生の方、私学に行かれたお子さんのお父さんであったり、会員は多岐にわたっています。多くの方と知り合いになれば、我が子が卒業してから学校に行く機会が増え、子どもたちの笑顔がたくさん見ることができてありがたいことです。

わずかですが子どもたちの成長をお手伝いしながら、子どもたちから多くの愛をいただいていることに感謝しつつ、これから

も歩もうと思います。

棚部さんがPTA役員になったのは「二〇〇三(平成15)年」です。私が副会長から会長になった年に棚部さんが副会長に入っていました。

当時はPTAの男性副会長がふれあい広場(バザー)の実行委員長、いわば責任者。うごん用にお湯を沸かすとか、もち米を煮かすとか、男手も必要になってくる。さては、自分が楽をするにはどうするかを考えたな。



校門のペンキ塗り2006(平成18)年2月



野球のゲージづくり2006(平成18)年7月

校門のペンキ塗りから始まって、大仕事だった野球のゲージづくり。歴代PTA会長で敷設の柏木さん、大活躍でした。LANケーブルの敷設の際は、お父さんたちがランチを作ってくれました。

そして「二〇〇五(平成17)年」の文化祭、後の「ふれスタ」の原型となる中庭でのバンド演奏。当時の用務員・渡辺さんが矢沢永吉を取ったのを思い出します。美術の中里先生はサックスで「ルパン三世のテーマ」に参加。

ステージのラストの曲「サタデー・ナイト」(ペイ・シテイ・ローラース)には、生徒たちもノリノリで集まってきました。

そして翌年・翌々年、中庭からグラウンドに進出したあげく、「騒音」となってしまうしました。



【編集後記】



行政区、高津区地域教育会議の議長をしている角田です。なぜか『わかあゆ』の企画・編集をしています。平成18年度から3期6年、東高津中学校区の議長を務めました。しかし、議長は私の病でなく、その間やそれ以降も、むしろイベントや事業の情宣および記録に関わってきました。そのため幾多のドキュメントや写真が手元にあります。

私たちの中学校区を紹介する時、①「川崎市に51の中学校区がある中、唯一、2つの中学校区が合同で活動している」とか、②「この中学校区の活動から2つのNPOが誕生した」などと言うことがあります。

①については、私より少し先輩たちの時代に由来しますが、防災・防犯ネットワークの理事でもある私は、②に関してはその真ただ中にいた訳です。SELFの副理事長である菊地さんが書いてるように、「難しい問題も多々ある中で夢を語った」り、また防災・防犯ネットワーク理事長の田中さんが語るように、自社の管理物件だけ安全な街はありえず「地域全体が安全な街にならなければ」という熱さがありました。

地域活動は、それを担っていただけの方をうまく繋げていくことが大事だろうと思っています。コロナ禍で通常ベースの広報誌が作れない中、記録として残せるものをまとめておこうというのが、今回の企画の目的のひとつです。

またタイミングとして、中学校区地域教育会議は、これから変貌しようという時期に当たっています。2019年度から公立学校のコミュニティ・スクール化が努力義務化されたことに対応して、中学校区地域教育会議を文科省の言う「地域学校協働本部」としてリニューアルすることや、その活動を支援するための地域教育コーディネーターの委嘱について、具体化に向けた検討やコーディネーター養成講座の開催などが、急ピッチに進んでいます。

そのような中、これまでの活動をまとめ、振り返っておくことは、意義あることだろうと思いました。

何とか原稿が集まり、形になりました。企画の趣旨をご理解いただき原稿を寄せていただいた皆さまに感謝を申しあげます。あまり相談もせずに進めた企画にゴーストを出していただいた藤田議長・横山議長、ありがとうございました。

そもそも、「(令和2年度は)角田さんには広報委員会を立て直してほしい」という横山議長の発言が発端。おおい、行政区の議長にそんなことを言えるのはあなたぐらいだよ(東高津中の歴代PTA役員は仲がよいのです)。

内容的にはおやじの会の分、東高津中学校区の比重が高くなってしまったかもしれませんが、藤田議長、ご容赦を。

誌面を作りながら、本当にいいメンバー・仲間にも恵まれたことだと、幸せな気分になりました。コロナが終息したらまた一緒に飲んだり歌ったり、神輿を担いだりしたいものです。

企画・編集 角田 仁



高津中学校区 藤田 和史 議長 東高津中学校区 横山 けい子 議長